



皮肉の分析：  
「皮肉らしさ」の観点から(二〇〇七年度卒業論文要  
旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-01-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 栃久, 保了平 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00007294">https://doi.org/10.32150/00007294</a>

皮肉の分析 — 「皮肉らしさ」の観点から —

日本語学研究室 四一〇五 栃久保了平

本研究の目的は、発話が「皮肉らしさ」を持つための前提条件及び「皮肉らしさ」を高める標識の現れやすさを明らかにすることである。なお、「皮肉らしさ」とは、聞き手に皮肉であると解釈される可能性のことである。

まず、先行研究を検討し、例文などを根拠に、聞き手の言動や行動に対して抱く話し手の期待や社会一般的な期待と現実との不一致、期待と現実の不一致に対する否定的態度の所持、発話の語用論的原則への違反が前提条件であること、また、語用論的原則への違反はグライスが挙げた会話の格率への違反で説明可能であることを明らかにした。

次に、「皮肉らしさ」を高める心的態度を暗示する標識に注目し、五三四件の实例を対象に、標識の現れやすさを調査・分析した。その結果から、誇張と終助詞は皮肉に多く伴う傾向があるが、感嘆詞と感情表出型の言語行為については伴いやすいとは言えないこと、先行研究では指摘のない比較表現が、感嘆詞や感情表出型の言語行為よりも多く見られることを明らかにした。なお、調査対象の範囲内では、誇張はニュースや新聞のコメントなどの公的な発言に伴うことが多く、終助詞は物語中のセリフなどの話し言葉に伴うことが多いことを指摘した。